教育長だより　No. 31

２０２３年2月20日

改訂版

年度末の「宝もの」

～ 自分の力量アップのために：子どもから「通知表」をもらおう ～

年度末が近づきました。子どもたちの通知表はもちろん、要録の記入や学級（学年）会計などの事務作業もそろそろ始める時期となり、みなさんあわただしくお過ごしのことと存じます。ご苦労さまです。

ところで、私が日ごろ校長会などでたびたびお話をしていることがあります。それは、公立学校の大きな役割は、「授業」（広い意味での学力の育成）と「社会性」（学級経営＝集団づくり＝人間関係づくり）の二つですよということです。授業と学級経営、この二つは教師という仕事を続けていく上で永遠の課題であると思います。

そこで、今回はこの二つの力量アップを図る一番の手立て＝秘策を紹介します。それは、子どもたちから「通知表」をもらうことです。この通知表は５段階（３段階）の評価ではありません。子どもに先生に向けた作文を書いてもらうことです。「子どもの作文」はすごく効果的です。だって、授業も学級経営も、その中心にいるのは子どもたちですから。「当事者に聞くこと」・・これです。

さて、その作文の中身ですが、２点あります。**一つは、「この一年間勉強（中学校では、教科の授業）をやってきた中で、みなさんが一番印象に残っていることを書いてください。」**です。これで子どもたちの『心に残る授業』とは何かが見えてきます。そして、そこから自分の授業を振り返り、それを積み上げ、そして、広げることで授業の力量を上げることができます。自分の授業の成果と課題を、子どもたちに教えてもらうのです。

もう一つは、「一年間、このクラスでやってきて、印象に残っていることを書いてください。」です。学級でのイベントや事件を書いてもらうだけでなく、それがどうして印象に残っているのか、そのときの先生の対応や取組みも忘れずに書いてもらうこと。「先生への注文」と言ってもいいでしょう。そこからは、学級づくりのヒントを子どもたちからいっぱいもらうことができます。

さらに、「子どもに作文を！」には、理由があります。単語や一行文では見えません。授業の流れやなかまづくりの微妙な関係は、すべてその前後やまわりの状況がある中で見えてくるからです。せめて原稿用紙１枚ぐらいはほしいですね。（私なら２～３枚配りますが・・。）そして、授業も学級づくりも、**どちらも最後に「先生に対して、これからどうすればもっとすばらしい先生になれるか？」などを書いてもらうとおもしろいですね。**

また、低学年や就学前は、保護者さんに書いてもらうというのも・・。もっとも、これには先生自身のかなりの勇気がいると思いますが・・・。でも、「他の先生に見られない」という『利点』もありますよ。これは私の「おすすめ」ですが、なかなか難しいことでしょう。

「子どものために」という視点と、「自分の成長のため」という認識で、一つ挑戦していただけたらと思います。飛躍への一歩です。きっとあなたの教員としての成長に役立ちますから。

残りあとわずか、今の子どもたちと共有する時間は限られています。この「子どもの作文」を次の新しい一年間にむけた「展望」につなげる『先生の宝もの』にしていただけたらと思います。